

## 要 約

試験委託者

環境省

表 題C. I. ピグメントブルー 29 のヒメダカ (*Oryzias latipes*) に対する急性毒性試験試験番号

A060062

試験方法

本試験は「新規化学物質等に係る試験の方法について<藻類生長阻害試験, ミジンコ急性遊泳阻害試験及び魚類急性毒性試験>」(平成15年11月21日 薬食発第 1121002号, 平成15・11・13製局第2号, 環境企発第031121002号, 最終改正:平成17年4月1日)に準拠して実施した。

- 1) 暴露方式 : 半止水式 (24時間毎に試験液の全量を交換)
- 2) 暴露期間 : 96時間
- 3) 試験濃度 : 対照区, 100 mg/L (試験液上限濃度での限度試験)  
(設定値) 被験物質は難水溶性の無機化合物であるため, 分散状態の試験液を用いて実施した。
- 4) 試験液量 : 5.0 L/容器
- 5) 連 数 : 1 容器/試験区
- 6) 供試生物数 : 10尾/試験区
- 7) 試験温度 : 24±1 °C
- 8) 照 明 : 室内光, 16時間明 (1000 lux以下) /8時間暗
- 9) 分 析 法 : 誘導結合プラズマ質量分析 (ICP-MS)

## 試験結果：

## 1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果、測定値の設定値に対する割合は、試験液調製時において91～92%、24時間後において89～90%であった。

参考として、試験液をフィルター\*でろ過したろ液を同様に分析し、試験液中に溶解している被験物質の濃度を確認した。分析の結果、ろ液中の被験物質濃度の平均値は、検出限界未満 (<0.296 mg/L) であった。

\*：ミリポア製 マイレクス HA 0.45  $\mu$ m

- 2) 96時間暴露後の半数致死濃度(LC50) : >90.2 mg/L (95%信頼区間：算出不可)
- 3) 96時間暴露後の0%死亡最高濃度 : >90.2 mg/L
- 4) 96時間暴露後の100%死亡最低濃度 : >90.2 mg/L